



# JSQC ニュース

No.318

発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 「理想追求型QCストーリーの確立に向けて」
- 2-私の提言 シューカツに思うこと
- 2-ルポルタージュ JSQC規格「品質管理用語」の講習会を開催して
- 3-ルポルタージュ 第113回中部講演会ルポ/第358回関西事業所見学会ルポ
- 4-池澤辰夫氏受章/4月の入会者紹介/行事案内/寄付のご報告

## 「理想追求型QCストーリーの確立に向けて」

名古屋工業大学大学院 産業戦略工学専攻 加藤 雄一郎

TQMとブランドマネジメント(BM)の融合はいま、新たな力を発揮しようとしています。それは、目的に基づく新規目標の継続的創造。「現状把握力」と「原因究明力」に関する深い知見を有するTQMは、BMとの出会いによって新たに「目標創造力」を高めようとしています。この実践を支える新たな思考技術が産声を上げるのはもう間もなくです。現状把握力、原因究明力、そして、目標創造力が三位一体になった時、最強の問題解決が本領を発揮すると確信しています。

### 一般的な問題解決の現状

QCストーリーなど一般的な問題解決の思考手続きは、「はじめに既存目標ありき」という立場のもとで、その目標に達していない現状に焦点が当てられます。しかし、明日の事業を切り拓くという観点から見た時、達成すべき目標は所与なのでしょうか？私の問題意識の原点はここにあります。

### ありたい姿はどこからやってくるのか

TQMから「問題」と「課題」の違いを学び、目から鱗が落ちました。なるほど。問題とは、「既にある目標(あるべき姿)と現状のギャップ」であり、課題とは「これから新たに設定する目標(ありたい姿)と現状とのギャップ」なのですね。しかし、それならば新規目標(ありたい姿)というのは何処からやってくるのだろうか。何

を根拠にありたい姿は設定されるのか。そのような新たな疑問が生まれました。

### 目標の上位には「目的」がある

ありたい姿の登場方法がわからず悶々としていた中、「三人のレンガ積み」というお話に出会いました。ヒントは目的と目標の関係にありました。目標の上位には目的がある。目的さえあれば、次の目標は自ずと生まれる。この大原則が、「目的に基づく新規目標の継続的創造」に主眼を置いた理想追求型QCストーリーの根幹となっています。

### 将来ニーズづくりは顧客と共に

最近のマーケティングでは、エンゲージメントというキーワードが注目されています。「婚約」ではなく、ブランドと顧客が深い絆を築き、両者の間に切っても切れない「われわれ意識」が形成されている状態をいいます。近年のヒット商品の傾向として「応援したくなる」という特徴があります。これはまさにブランドとの間に強く深いエンゲージメントがあるといえます。

今日の複雑化・多様化・個別化した市場環境において、将来のニーズを捉えることは困難を極めています。次世代の要求品質は何か。この問いはもはや企業が単独で考えることではないと思っています。目的(ビジョン)に賛同する共感者とともに、新規目標(次

世代要求品質)を編み出していくものなのではないでしょうか。

将来のニーズは顧客自身も知らない可能性が高い。顧客が言えることは、現行パラダイムにおける「今のニーズ」にすぎない。「顧客にニーズを訊く」という姿勢ではなく、「顧客とともに、将来のニーズを創る」という姿勢が必要なのです。これを地で行く企業があります。コマツです。幾度にも及ぶ対話を通じて、双方から見て魅力的な目的を作り、その実現に向けて両者が力を合わせて何を達成するか、という「目的と新規目標」を丁寧に詰めていきます。

### 目的に基づく新規目標の継続的創造。理想追求型QCストーリーの確立に向けて

BMはTQMから多くのことを学びました。特に、現状把握と原因究明に関する優れた方法論は衝撃をもたらしました。これからはBMの立場からTQMに恩返しをしていきたいと思っています。その象徴が理想追求型QCストーリーの確立です。事業に関わる人々の内発的動機付けをあますことなく引き出し、目的に基づき新規目標を継続的に創造するための新しい思考プロセスの確立を目指しています。今秋、この確立と普及を目指す研究会が発足します。ケースを積み上げ、また次の機会にご報告したいと思っております。研究会概要や進捗は下記研究室facebookでも発信して参ります。

www.facebook.com/brand.design.lab

## ● 私 の 提 言 ●

## シューカツに思うこと

関西大学 経済学部 橋本 紀子



少子・高齢化と人口減少の下で、日本の成長戦略は「人的資本」の充実以外には考えられない。このため近

年、さまざまな教育に関する取り組みが行われている。しかし、それらは必ずしも目的に応じた成果に結びついていない。なぜだろうか。

まだ大学教育が社会のニーズや変化のスピードに対応できていないという問題も残る。一方、すでにさまざまな教育改革が行われ、社会で必要とされる力を身につけるための工夫が行われているが、それが「現実」に即した学生のニーズに合わず受け入れられてい

ない状況もある。大学や社会の考えるニーズ（正論、タテマエ）と学生のニーズの間にズレがあるからである。

さて、最近の若者は元気がないという声をよく聞く。たしかに、促しても自分の意見を言う者は多くなく、課外行事を示しても興味を示す者は少ない。

しかし、学生が発言しない、行動しないのは、それが得にならない（と思っている）からである。彼らが情報収集力に優れ、順応性が高く、極めて合理的に行動した証拠でもある。

大学生にとって、何よりもシューカツは大事である。では、どんな学生が評価されるのだろうか。たとえば経団連が企業会員545社から回答を得た新卒採用に関するアンケート調査（2011年度）を見ると、重視されるのはコミ

ュニケーション能力（80.2%）や協調性（55.0%）であり、論理性（25.6%）、専門性（21.7%）、創造性（14.0%）を大きく引き離している。語学力や学業成績はそれぞれ6.0%、5.4%しか考慮されていない。この「現実」（実際、このアンケート結果は、我々が感じている就職状況と合致している）を見れば、学生の行動を非難することはできない。

このような状況で、たとえグローバル時代における問題解決能力について熱く語り、考える力を身につけようと訴えても、学生たちは冷静に自分にとって得な選択をしていくだろう。

こう考えると、企業が人材育成の、教育の大きな鍵を握っていることがわかる。決して責任転嫁ではない。今後、教育の場に立つ者は、長い目で見て役立つ知識やスキルを教授していく。一方、企業では、どうか真の意味で意欲的な学生を採用し、育てていただきたい。その両輪が回って始めて、これからの厳しい時代を日本が乗り越えていくことができる。

## JSQC規格「品質管理用語」の講習会を開催して

村川 賢司（事業委員会）

「用語の定義を通して品質管理の本質を学ぶ」と題して、6月15日（金）の午後、日科技連千駄ヶ谷本部において、新しい試みである講習会が開催されました。この講習会は、品質管理に関する147用語がJSQC規格「品質管理用語」（JSQC-Std 00-001:2011）として2011年10月29日に制定・発行されたことを契機に、品質管理分野に関心を持つ方々がその本質について深く学ぶ機会を提供しようという趣旨で企画されました。

JSQC規格「品質管理用語」は、品質管理を実践する人にとってその文化や風土に適した定義が不可欠であるとの認識から、ISO9000に代表される国際規格の定義や旧JIS Z 8101の定義（ISO9000シリーズの導入に伴って1999年に廃止されました）、品質管理分野の多くの書籍の定義を横断的に整理し、当学会が3年余りの時間をかけて調査研究して開発したものです。

講習会は、JSQC規格「品質管理用語」をテキストにして、中條標準委員長による制定のねらいに始まり、

品質管理を実践するうえで根幹をなす代表的な約30用語の定義について、用語の背後にある概念、定義の本質的な意味、JISやISOの定義との相違の意図、定義化で特に議論されたことなどを、規格開発に携わった標準委員が解説しました。

最後に行われた全体討論では、ISOによる定義との関係性などが熱く意見交換されると共に、学会として総合的品質管理（TQM）の全体像を再整理していく重要性や日常管理のJSQC規格化の動きなども披露されました。

参加者からは、品質管理用語を再認識したことや半日講習では内容が豊富すぎるなどの感想が寄せられており、品質管理用語を引き続き啓発普及していくことを含めて、学会による研究・開発の成果を学ぶ時宜を得た場づくりが大切であるとの観を深めた講習会となりました。

## 第113回中部 講演会ルポ

### 『新たな時代を見据えた 新たな成長力の確保』

2012年5月21日(月)第113回講演会(中部支部第53回)が刈谷市総合文化センターにて標記のテーマで行われ、180名の参加者が聴講した。「日本企業は、どのような成長戦略を描いて行くべきか」を考える場として、各界で著名なお二人に講演をしていただき、多くの聴講者から大変高い満足度を得た。

#### ■講演1『ダントツ経営』

コマツ 取締役会長、JSQC会長

坂根 正弘 氏

グローバルな視点で世界の流れを分析、自ら経営構造改革を実施し、また企業の強みを活かし、お客様視



点に立ったダントツ商品・サービスの創出により企業価値を高めV字回復を成し遂げた具体的な経験や、トップリーダーの果たす役割とミドルの役割について講演いただいた。経営理念、経営の取り組み、経営トップのリーダーシップに感銘を受けた聴講者が多かった。

#### ■講演2『これからの日本のエネルギー問題を考える』

中部大学 総合工学研究所 教授

武田 邦彦 氏

日本の原子力発電所の脆弱性や、世界の化石燃料やエネルギー事情、それと地球温暖化対策に対する批判や不平等性などについて、解り易い講演をしていただいた。人間は、納得出来る場合にそれを正しいと考えるがちであるが、例えばマスコミ等からの、その情報が本当に正しいかどうかを見極めることが重要との説明に対し、多くの聴講者が賛同、納得していた。 深澤 一正 (コマツ)

## 第358回関西 事業所見学会 ルポ

### (株)GSユアサ 京都事業所

第358回事業所見学会が、平成24年5月24日(木)に(株)GSユアサ京都事業所内の産業電池生産本部にて、参加者42名で開催された。同社は、長年競合として切磋琢磨してきた日本電池(株)と(株)ユアサコーポレーションの2社が、2004年に経営統合して誕生、「深海から宇宙まで」あらゆる種類の2次電池(蓄電池)を生産している。

京都事業所は同社国内の最大拠点で、鉛蓄電池やLiイオン電池など2次電池全般を製造している。始めに「電池の現状と展望」「産業電池生産部門のTQM活動推進について」のプレゼンがあり、続けて据置鉛蓄電池生産工程と、展示で同社の歩みがわかる「パワーギャラリー」の見学をさせて頂いた。

統合当初から、生産工程で価値を創造するVIP(Value Innovation Project)活動を立上げ、2009年からTQM本格導入による方針管理強化、2010年には

「TQM活動強化宣言」を軸に、生産能率向上を図るSPS活動をスタート、2011年度には日本品質奨励賞の「TQM奨励賞」を受賞された。

活動の主軸は①トップのリーダーシップ②改善活動③標準化と日常管理④品質向上3ヶ年計画、の4本である。文化の異なる2社の経営統合には大変なご苦労があったそうだが、コミュニケーション強化や部門横断プロジェクト活性化で対応されてきた。また、品質保証体系図、業務プロセスフロー図も詳細にわたり、仕事の流れの標準化が着実になされていると感じた。

工場見学では、鉛の粉碎から製品充電工程まで、全工程を見学させて頂いた。現場活動板の他にSPS専用活動板が併設され、能率や多能工化の進捗が日常管理できる仕組みがキチンと回っている。「TQM活動で人を育てる」とおっしゃった村尾本部長のお言葉が、現場に浸透している事が実感できた。清掃エリアMAPに基づいた5Sもされ、粉体、水が飛散しがちな現場が整然としている。フォークリフトが場内を常に行き来するが、通路の交差や角毎に半球ミラーが設置され、安全にも十分留意された工場であった。

飯塚 裕保 (積水化学工業(株))

## 池澤辰夫氏が瑞宝中綬章を受章

本学会名誉会員・元会長で早稲田大学名誉教授の池澤辰夫氏が平成24年度春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。

池澤氏は、独自の「問題解決のためのQCストーリー」の提唱、また全社的な品質管理の展開と共に、製造、技術部門のみならず製造業における事務、営業、サービス部門への普及、さらにサービス産業への導入、普及をされました。

永年にわたる品質管理の発展への多大な貢献による受章、誠におめでとございました。

### 行 事 案 内

#### ●第142回シンポジウム（関西）

テーマ：日本の技術力・プロジェクトマネジメント力による成功例に学ぶ

日 時：2012年8月28日(火)13：00～17：30

会 場：中央電気倶楽部 5階ホール

参加費：会 員3,000円 非会員 4,000円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

プログラム：

講演①「「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その7年間の歩み」

川口淳一郎氏（JAXA）

講演②「10ベタフロップスのスーパーコンピュータ「京」」

渡辺 貞氏（理化学研究所）

パネル討論

「スーパーコンピュータ「京」プロジェクト推進の実際」

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

#### ●第80回クオリティトーク（本部）

テーマ：FMEA辞書一品質問題を無くす設計と設計審査の考え方

ゲスト：本田陽広氏（デンソー）

日 時：2012年8月28日(火)18：00～20：30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名

参加費：会 員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

#### 寄付のご報告

品質Vol.42, No.3 特集記事2編の著者（アルフレッド・ノイドルファ氏、石原雄二氏他）より、原稿料32,000円を東日本大震災義援金としていただきましたので、7月27日に日本赤十字社を通じて寄付いたしました。

（含軽食・当日払い）

詳 細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

#### ●第99回研究発表会（中部）

日 時：2012年8月29日(水)

研究発表会 13：00～18：20

懇親会 18：30～20：30

会 場：名古屋工業大学

統一テーマ：「実践的Qの確保」の拡大・深化

参加費：会 員4,000円（締切後4,500円）

非会員6,000円（締切後6,500円）

準会員2,000円・一般学生3,000円

[懇親会]

会 員・非会員 3,000円

準会員・一般学生 2,000円

申込締切：8月22日(水)

定員になり次第締切

詳 細：ホームページをご覧ください。

申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。

#### ●第20回ヤング・サマー・セミナー

テーマ：品質保証の実践

日 時：2012年9月8日(土)～9日(日)

会 場：サンデンコミュニケーションプラザ（本庄市）

定 員：35名

参加資格：正会員・準会員

（原則として35歳以下）

参加費：無料（交通費は自己負担）

申込締切：8月27日(月)

詳 細：ホームページをご覧ください。

#### ●第100回研究発表会（関西）

日 時：2012年9月14日(金)

会 場：大阪大学中之島センター

9：30～17：00（予定）

参加費：会 員3,000円 非会員 4,000円

準会員1,500円・一般学生2,000円

### 2012年4月の 入会者紹介

2012年4月16日の資格審査において、下記の通り正会員7名、準会員2名、賛助会員3社の入会が承認されました。

.....  
**（正会員7名）** ○本田 晴久・原田 直樹・近藤 智保（メイドー）○松永直之（日本規格協会）○山本 勇（マネジメントシステム評価センター）○増田 雪也（増田技術事務所）○田代久人（東京大学）

.....  
**（準会員2名）** ○高橋 達也（名古屋工業大学）○吉富 玄（東京理科大学）

.....  
**（賛助会員3社5口）** ○メイドー○NEC フィールドディング○旭硝子

.....  
**正 会 員：2359名**

**準 会 員：98名**

**賛助会員：158社213口**

**公共会員：22口**

.....  
 ※当日払い

詳 細：ホームページをご覧ください。

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

#### ●第42回年次大会・コマツウェイ総合研修センタ（本部）発表募集中！

日 時：2012年10月27日(土)

(1)申込期限

発表申込締切：8月27日(月)

予稿原稿締切：9月28日(金)必着

参加申込締切：10月17日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

7月送付の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

#### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本 部：FAX 03-5378-1507

E-mail：[apply@jsqc.org](mailto:apply@jsqc.org)

中部支部：FAX 052-203-4806

E-mail：[nagoya51@jsa.or.jp](mailto:nagoya51@jsa.or.jp)

関西支部：FAX 06-6341-4615

E-mail：[kansai@jsqc.org](mailto:kansai@jsqc.org)